

成田市教育委員会会議定例会会議録【会議概要】

平成26年4月成田市教育委員会会議定例会

期日 平成26年4月24日(木) 開会：午後3時00分 閉会：午後4時40分

会場 成田市役所5階503会議室

出席委員

委員長	秋山 皓一	委員長職務代理者	小川 新太郎
委員	高木 久美子	委員	福田 理絵
教育長	関川 義雄		

出席職員

教育長	関川 義雄(再掲)		
教育総務部長	深山 芳文	生涯学習部長	藤崎 祐司
教育総務課長	伊藤 和信	学校施設課長	藤崎 宏行
学務課長	柳 鶴 暁	教育指導課長	大竹 誠司
学校給食センター所長	後藤 文郎	生涯学習課長	秋山 雅和
生涯スポーツ課長	大矢 知良	公民館長	木川 義夫
図書館長	須賀澤 賢治	生涯学習課課長補佐	木内 悦夫
教育総務課課長補佐(書記)	加瀬林 操		

【会議概要】

1. 委員長開会宣言

2. 教育長報告

主催事業

○3月28日 平成25年度生涯大学院卒業式・修了式について

3年間の学習を終え卒業生57名。2年修了:77名、1年修了:89名、合計213名。
この内、7名が3か年皆勤、2年生14名と1年生15名が1年皆勤という見事な成績であった。年間30講座を1日も休まず受講するのは大変難しいと思うが、その学習意欲は本当に素

晴らしく、同時に、今回卒業した方々は、第34期生ということで、この生涯大学院が長く続いてきたことを実感する。今後も多くの方が学ばれることを願っている。

○3月28日 第1回文化振興マスタープラン策定委員会について

策定委員は、本会議で承認されている5人の方々であるが、中でも後藤委員には、現在千葉大学教授でありながら、牛久市教育委員会委員長も務められるなど、大変ご多忙の中、本市の策定委員をお引き受けいただき、大変感謝している。第1回目の会議ということで、委嘱状を交付し、委員長に榎田委員、副委員長に天沼委員を選出した。その後、文化振興マスタープラン骨子案について協議したが、冒頭、大塚委員から、「行政として、本市の文化芸術をどのように考えているのか、その考えを聞かせてほしい」との厳しい質問が出た。この質問の背景としては、「せっかく成田市内で貴重な文化財が出土しても、これを保存・展示する施設がない。そのために貴重な文化財を他の市町の施設に置かせてもらっている。倉庫に眠ってしまったままの文化財も多い。市の本気度がうかがえない」とのご意見で、また、「以前、市では博物館をつくるという構想があったが、それもいつの間にか消えてしまった」ということも発言されたが、私からは、今後、廃校になった学校跡地を活用し、できるだけ早い時期に文化財の保存・展示施設をつくっていききたいと述べた。

まだ第1回目の策定委員会だが、後藤委員からは多くの前向きなご意見をいただき、今後の本市における文化行政の方向をお示ししていただいたように感じた。今後の策定委員会でさらに深めていきたい。

○3月29日 滑河小学校・小御門小学校閉校式について

3月30日 名木小学校・高岡小学校閉校式について

4校はそれぞれ、長い歴史を刻んできた学校であり、この地域に住む方々は、この学校を心のふるさととして親しんできた、そういう学校であり、そういう歴史に幕を閉じるのであるから、感慨はひとしおである。ただ、歴史は古くても、そこで行われる教育については、少人数で、子ども一人ひとりの考えを広げるには、決して十分な環境とは言えず、また、切磋琢磨するには物足りない状況であったことは事実である。以前、統合についての説明をしている際、この状況を打破し、新しい教育の展開を訴えたとき、保護者の間に、これに共感し、期待する声も多くあった。学校を無くすからには、新しくできる学校により多くの期待があつて当然であり、絶対に成功させなければならないという、覚悟も必要である。趣向を凝らした式典を見ながら、さらにこの気持ちを強くした次第である。

○4月7日 下総みどり学園開校式について

県教育長の出席に感謝する。これは、小中一貫教育校であることも大きな要因である。今後

の発展に期待の言葉をかけられていたが、教育委員会としてもこの学校の教育を一つの先進事例として誇れるような内容にしていけるよう支援していきたい。

○4月8日 下総みどり学園入学式について

前日の開校式同様、多くの来賓がお見えになった。より多くの方に新しい学校をお披露目するのは良いことであると思う。入学したての7年生が、同じく入学したての1年生の手を引いて入場する姿はほほえましく、どこの学校にもないこの学校だけの特色である。1年生を気遣いながら入場する7年生もとても良かった。

また、この日も全児童生徒による合唱があったが、前日よりさらに大きな声で子どもたちにも活気がみなぎっていた。やはり新しい校舎、新しい形式の教育に対する期待、喜びが大きいのだと感じた次第だ。新入生歓迎の言葉も、前日同様9年生が行ったが、また、同じように原稿なしの言葉。途中、言葉を忘れ躓く場面もあったが、「ちょっと、あがってしまって・・・」と言った後、またしっかりと言葉を言えたのには、本当に感心した。来賓控室でも、この生徒を称える声が多く、学校の教育力をしっかりと見せつけることができたのではないかと思った。また、この状況をまだ幼い小学生もしっかりと見ており、それだけでも小中一貫教育の成果があるのではないかと感じた次第である。

○4月9日 吾妻小学校入学式について

吾妻小学校は、校舎大規模改造中でプレハブ教室を活用して学校運営を行っている。この日の入学式では136名の新入生があり、受付場所が広く取れないという事情から、混乱しており、気の毒な状況であった。しかし、多くの来賓の方々は、これだけ児童が増えたことを一様に喜んでおり、活気に満ちた学校に大いに期待する気持ちが表れていた。控室では、今年の運動会はどうするか、その場所の確保について、今から心配する声も上がっていたほどである。

式の内容については、新入生児童の誘導がうまくいかずに、式場で混乱する場面もあったが、過度の緊張もあったのだろう、終始泣き顔の子もいて、とても心配になった。その子の担任となる先生も、緊張していたのだろうが、もう少し笑顔で見守ってほしいものだと感じた。いつでもどんな時でも子どもの立場に立って感じてほしいというのが、私の思いだ。他の学校の入学式に参加された委員さん方の感想もお聞きしたい。

○4月10日 平成26年度施策説明会（校長部門）について

この説明会についても全委員さん方に出席していただいた。状況はすでに周知のとおりなので特に報告は控えさせていただく。

○4月11日 教育委員会施策説明会（教頭・事務職員部門）について

この説明会は、前日実施した校長部門と同様の会だが、実務担当者である教頭と事務職員が

対象ということで、説明内容も具体的で実際の事務運営にかかわる内容が中心のため、初めの挨拶だけで中座した。校長会議でも話したが、教員が、子ども一人ひとりとしっかり向き合うには、教頭自らが率先して範を示すことが大切であるという話をさせていただいた。4月当初は進級、進学のと時期であり、子どもも担任教員が交代する等、心が不安定になる場合がある。どの学校でも、どの地域でも、子ども一人ひとりの心情に寄り添ってしっかり支えていくことが今、最も大切なことだと思っている。良いスタートを切りたい。

○4月22日 家庭教育学級運営委員会について

年度当初の家庭教育学級運営についての説明会であり、昨年度は、市内69の各保育園、幼稚園及び小中学校で家庭教育学級が運営されてきたが、今年度は、5つの小学校の廃校と、1つの小学校の新設があり、昨年と比べ、開設される学級も4減のはずだが、下総みどり学園では、1年、5年、8年の3学級が開設されることになり、結果的には3学級減の66学級が開設されることになった。実際のところ、保育園で家庭教育学級を開催するのは難しいと思うが、園の行事に合わせて実施するのがやっとなかと思われ。関係各位の努力と協力が必要だと思いが、まだ子育てに自信のない方や、どうしたらいいか悩んでいる方なども多いと思われるので、この機会に思い切って参加し、良い仲間を見つけて、親がまず元気になってもらって、明るい家庭を築いていただけたらいいのではないだろうか。

○4月23日 大栄地区小学校統合推進委員会による下総みどり学園視察について

大栄地区統合推進委員会のメンバーのうち、委員長はじめ13名の方が下総みどり学園を視察。大栄地区5小学校の統合はすでに決まっているが、この学校を大栄中敷地内に建設するに当たり、私たち教育委員会が推奨する小中一貫教育が本当に効果的なのかどうか、そもそも小中一貫教育とはどんなものなのか、という疑問に答える形でこの日の視察を計画した。

視察された委員方からは、ほとんど質問が出なかった。委員の一人から、「まだ学校始まったばかりでどんな成果が出ているかわからないので」という発言もあったが、逆に、どんな成果を望んでいるのか、また、どんな成果があれば大栄地区でも小中一貫教育を取り入れるのか、それを発言してほしかった。この統合推進委員会を機能させるには、選出された委員の積極的な参加意識が必要だと感じた。こちらからもっと働きかけを強くしていきたい。

○4月24日 ふれあいコンサートについて

山田路子さんの篠笛演奏で、篠笛はその名の通り、篠竹に穴をあけただけのシンプルな横笛で、楽器としての歴史も長い。フルートと同じような吹き方で演奏されるが、民謡やお囃子の演奏等で使われ、多くの人に知られている。今日のように篠笛だけの演奏を聴く機会はあまりないので、楽しみにしていた。ロビーには100人をはるかに超えるお客さんが聴きにいらして

おり、皆、美しい音色に聴き入っていた。次回は大村みのりさんの「ピアノ&叙情歌」で、5月22日（木）に開催予定である。委員の皆様にも是非お聴きいただきたい。

市議会

○3月26日 教育民生常任委員会下総みどり学園現地視察

当日、別の公務が長引いたことから視察には参加できなかったが、担当課長の中で出席した者がいるので、後ほど、視察された方々の声など、聞かせてもらえればよいかと思う。

その他

○3月26日 印旛郡市文化財センター理事会

平成25年度の事業並びに収支報告と、平成26年度の事業計画並びに収支予算について、審議。同センターの事業は年々減少してきており、今後の財団維持に関わる問題含みの状況となっている。本市からも職員を1名派遣しているが、同様に、佐倉市、四街道市、栄町からも派遣職員がそれぞれ1名ずついる。公益財団法人として今後も継続して運営していくためには、事業の拡大と人件費等の支出を抑える努力が必要で、各市町の理解と協力が重要である。

○4月1日 平成26年度新規採用職員入所式について

市役所に新規採用となった職員であるが、消防士20名を含む、89名の新規採用者である。団塊の世代が定年退職を迎えているため、新規採用も多くなっている。この人材をしっかりと育てていくことも大切である。

○4月5日 第6回成田女子サッカーフェスティバルについて

千葉県及び関東近隣から女子サッカー8チームが参加、U-12は、トーナメント形式で、U-15は4チームリーグ戦を行った。地元成田のLC成田は、昨年度U-12関東大会で準優勝、その技術レベルは高く、発達段階によるスピードとパワーの不足はあるが素晴らしい個人技とチームプレーができていた。女子サッカーは年々そのレベルが向上し、つい先日行われたU-17女子ワールドカップでも日本が優勝している。試合を見ていると、こうした地方の大会でも公式女子審判員がジャッジする中、試合が行われているし、試合後審判員が集まって上級指導者に審判についてのレクチャーを受けていた。つまり、選手のみならず審判の方も自らの技術力の向上に懸命であったということから、今後もますますこの女子サッカーが発展していくのではないかと思った次第である。ただ、サッカー指導者からは、「現状は中学校で女子サッカー部が少ないため、どうしてもこの期間にレベルが停滞してしまうのが大きな課題である。できれば中学校で女子サッカー部を作ってほしい」という声が聞かれた。

○4月11日 平成26年度市町村教育委員会教育長会議について

内容は、県の施策説明が中心。昨年度途中及び、新年度に入って新たに教育長に任命された

者は7名。総勢54名の出席があった。会議の中では、初めに瀧本教育長から「すべては子どもたちのために、現場重視で！」という基本的な考えのもと、様々な教育施策を展開していくとのお話があった。また、千葉県の教育振興基本計画は、5年計画の最終年度にあたり、目標達成の努力と第二期の計画策定にあたるという方針も示された。県の施策に基づき、本市の施策も示しているわけで、内容的には、ほぼ同様のものであるが、特に、子どもたちにはこれからの社会を生き抜く力をつけさせてやりたいということで、知・徳・体の面でそれぞれ力を入れて実施する施策が示された。

○4月12日 スポーツ推進委員連絡協議会総会について

総会開催の前に、新任11名と、再任27名のスポーツ推進委員に委嘱状を交付。スポーツ推進委員連絡協議会では、毎月1回の定例会のほか、県や印旛郡市の大会や研修、市主催のスポーツ行事、スポーツフェスティバルやPOPラン大会等の運営に協力している。また、総会において、会長には、昨年度に引き続き菅沢くみ子氏を、副会長に岩澤弘氏他2名等、役員を選出も行った。

○4月14日 平成26年度第1回印教連常任委員会及び印旛地区教育長会議について

本年度第1回目の定例常任委員会に出席した。ここでは、初めに教科書採択について、今年度事務局を担当する印西市からの挨拶と連絡があり、その後、4月22日に開催する印教連定期総会の流れについて確認し、意見交換を行った。また、会議の後半に今年度の事務局業務分担や印教連研修視察について、事務局から報告があった。なお、印教連事務局は今年度も成田市が引き受けることになっている。

教育長会議では、新任の羽山北総教育事務所長からの挨拶のあと、井上北総教育事務所次長から北総教育事務所の概要説明と県教育委員会の課題と対応等について説明があった。北総管内11市5町で、小学校は187校、中学校は76校、県立高校が23校、盲学校が1校、特別支援学校が6校とのことだったが、学校数は県内5事務所の中で最も多いとのこと。

○4月14日 地域伝統芸能全国大会「地域伝統芸能による豊かなまちづくり大会 NARITA」第1回実行委員会について

本年11月8日、9日に開催される大会の実施計画案及び予算案が提案、可決。大会の愛称は「日本の祭り in 成田2014」、大会テーマは、「運氣上昇のまち 成田で出会う日本のまつり」、となり、メイン会場を成田国際文化会館、サブ会場を太鼓祭りと同様に、成田山総門前広場及び成田山表参道とした。主催は成田市と一般財団法人地域伝統芸能活用センターとで組織する「地域伝統芸能による豊かなまちづくり大会 NARITA」実行委員会となる。後援は国土交通省、観光庁、経済産業省、文化庁、農林水産省、総務省、日本政府観光局、NHK となっている。

いずれにしても大変大規模な大会となる。

○4月14日 第84回郷陽会展について

公津の杜「もりんぴあ」で4月14日から4月20日までの期間で開催。本市における開催は23年ぶりとのことで、地元開催を心から喜んでいる様子が伺えた。当日の懇談会でもそのことが一番の話題となっていた。同時に来年7月に完成予定の駅前の再開発ビル内にできるギャラリーについても大きな関心があり、次回はそこで開催したいとの意欲を示していた。昭和5年に第1回展覧会を開催後、戦中戦後も続けて開催し続けている絵画展である。開催できなかったのは2011年の大震災の年だけという会員の方の自負があり、素晴らしい意欲を感じた。

○4月18日 平成26年度千葉県都市教育長協議会総会について

政令指定都市である千葉市を含め、県内37市の教育長が参加した。内容については、総会であるので、平成25年度事業並びに決算報告、平成26年度事業並びに予算案について審議した後、会長はじめ役員を選出を行った。役員については、本協議会の申し合わせ事項により、既に輪番表にて、各教育事務所管内で役員を選出することになっている。役員の任期は3年で、平成25年度から引き続き継続していくことになっているため、会長には鎌ヶ谷市の川西八郎教育長、副会長には浦安市の黒田江美子教育長と印西市の大木弘教育長が再任された。ちなみに、平成25年度から3年間、北総教育事務所管内では、千教連の会長と県都市教育長協議会の副会長を選出することになっている。

○4月20日 成田山車まつりについて

市役所駐車場に市内の山車・屋台18台が勢ぞろいし、開会式後、一斉に総踊りを披露した。これだけの山車・屋台が一堂に会するのは5年ぶりであり、総踊り後、市長の合図で、山車、屋台の運行が始まった。多くの方々が見守る中、参道に向けて動き出す姿に大きな拍手が沸いた。本来、お祭りは夏に行われるものであるが、春にこうした祭り姿を見られるのは、祭り好きにはたまらない瞬間だったと思う。三里塚から駆け付けた屋台は、4時間もかけて市役所まで引いてきたとのことで、帰りは、途中までは引いていくが、長い坂は車に引いてもらうとのこと。そうした努力や協力を得て、みんなでこの祭りを盛り上げようとする姿も素晴らしいことである。

○4月22日 平成26年度印教連定期総会について

委員長が印教連会長として再任されたので、今後も引き続き皆様のご支援、ご協力をお願いしたい。

《教育長報告に対する主な質疑》

- 委員：成田中と西中の入学式に参加した。成田中は落ち着いてしっかりした感じで、滞りなく進んだが、西中では式場に入らなかった3年生数名が騒いでいたようで終了後も落ち着きがなかった。教育委員会としても他の子どもたちが落ち着いて勉強できる環境を確保していただきたい。また、本日の篠笛のコンサートに参加させていただいたが、私も篠笛というとお祭りのお囃子くらいしか聴いたことがなかったが、大変素晴らしい演奏でマイクも無しであれだけの音が出るとは知らなかった。また、篠笛もいろいろあり、いろいろなジャンルの音楽を演奏できるということも初めて知り、今日は素晴らしい演奏を聴かせていただいた。
- 委員：加良部小と公津の杜中の入学式に参加した。加良部小は、まだインフルエンザが流行っており、欠席のお子さんがいた。公津の杜中では、片頭痛のお子さんがあり、がまんしながら参加していたようだが、今、中学生の男子で片頭痛が多くなっているとのことであり、子どもたちの体も変わってきたと感じた。閉校式は4校出席したが、それぞれの学校がそれぞれの特色を出していたが、ある学校で、女性の先生の服装が気になった。式に出るときは、それなりの服装をしていただきたい。
- 委員：橋賀台小の入学式に出席したが、新入生入場の時に、席に座らせるのに手間取っていたので、初めに並ばせておけばと思った。また、他の委員が出席した加良部小の入学式だが、新入生が随分落ち着きがないといううわさを聞いたが、どう思ったか。
- 委員：椅子が高くて足がつかなかったからかと思う。足が着くような椅子にすれば良かったのにと考えた。
- 委員長：閉校式は5校に出席したが、東小以外の下総地区4校の閉校式は、生徒はみんな同じ環境で入学すると思うが、小学校4校のうち生徒がきちんとしている学校と落ち着かない子がいる学校とあり、校長先生を含めた先生の指導が違うのか地域の教育力が違うのか気になった。入学式は、成田小と遠山小に出席したが、遠山小では新しく入ってくる児童・生徒の名前が間違えて貼り出されてしまい、父兄には、お詫びのうえ後日訂正するとのことだが、事前のチェックはしっかり実施されたい。下総みどり学

園の開校式では、閉校式の報告で関川教育長が「閉校するからには新たな開校を絶対に成功させねばならないという強い気持ちを持ってきた。」とのことであるが、下総みどり学園は市内外の注目を浴びている学校なので、私からも「仏造って魂入れず。」と言われたいよう細心の注意をもって見守り支援をしていただくよう要望する。

3. 議 事

(1) 議 案

(議案第1号から議案第7号は人事案件であるため成田市教育委員会会議規則により非公開とする議決)

<これより非公開>

議案第1号 成田市学校評議員の委嘱について

《審議結果》

承 認

議案第2号 平成26年度教科用図書印旛採択地区協議会委員の選出について

《審議結果》

承 認

議案第3号 平成26年度教科用図書印旛採択地区協議会専門調査員会専門調査員の推薦について

《審議結果》

承 認

議案第4号 成田市学区審議会委員の委嘱について

《審議結果》

承 認

議案第5号 成田市心身障害児教育支援委員会委員の委嘱について

《審議結果》

承認

議案第6号 学校体育施設管理指導員の委嘱について

《審議結果》

承認

議案第7号 成田市視聴覚ライブラリー運営委員会委員の委嘱について

《審議結果》

承認

<非公開を解く>

議案第8号 成田市教育資金利子補給金交付規則の一部を改正するについて

【伊藤教育総務課長 議案資料に基づき説明】

(要旨)

成田市教育資金利子補給金交付規則は、株式会社日本政策金融公庫又はその代理店から教育資金の融資を受けて高等学校、高等専門学校、大学及びその他学校に入学又は在学する者等に対して利子補給金を交付し、教育の機会均等と経済的負担の軽減を図るとともに、教育の振興に資することを目的として制定され、平成10年4月1日から施行されている。

平成26年4月1日から株式会社日本政策金融公庫による教育資金一般貸付（国の教育ローン）に係る融資の限度額が300万円から350万円に拡充されるとともに、海外留学資金として利用する場合の限度額が450万円に拡充されたことに伴い、本規則における利子補給金の交付対象となる融資の限度額を450万円に増額する。（第4条）

返済状況の確認は、第9条による株式会社日本政策金融公庫からの報告と「第5号様式」による申請者からの請求書上に同公庫の証明を記入という二重の確認を規定していたが、どちら

かの確認で対応可能であることから、今回の限度額の改正に合わせて条文を整理する。

さらに、第10条において、交付期間の延長のみの規定だけではなく、期間の短縮等の変更申請についても明確にするため、新たな様式として「教育資金利子補給金変更申請書」とともに規定する。これについては期間短縮の変更申請の明確な規定がなかったことから延長・短縮などの変更を規定した。

変更となる規則の施行日は、5月中とし限度額の増額分への対応については、4月1日からの申請に対応し、遡及適応する。

なお、規則の条文の文言については、例規担当部署との調整により若干の修正があると思われるが、ご了解をいただきたい。

《議案第8号に対する主な質疑》

委員長：利用者数、利率は。

伊藤教育総務課長：利用者数は、175件、補給した金額は約220万円、1件当たり12、500円ほど補助をしている。(平成24年度実績)

利率は、融資利率の2分の1または、5%のいずれか低い方としていることから、平成26年3月10日現在、国の教育ローンの利率が年利2.35%(固定金利)であることから5パーセントに届かないため、2.35%の半分を補給している。

議長：議案第8号 成田市教育資金利子補給金交付規則の一部を改正するについて、を原案のとおり決する。

(2)その他

・市議会教育民生常任委員会の下総みどり学園現地視察について

【藤崎学校施設課長による報告】

(要旨)

3月26日、伊藤委員長をはじめ委員4名が統合小学校及び児童ホームの建築工事竣工について視察を実施。執行部は教育総務部長、学校施設課長、健康こども部長、保育課長が出席。小中一貫教育という性質のある新築校舎ということで、3階の中期ブロック5年生から7年生の

教室を見学、これから一貫教育が行われるんだなということを確認していただき、今後の教育のあり方について思い浮かべていただいた。児童ホームについては、保育課長が説明。現在50名定員中、37名の利用があり、広く明るい環境に好印象を持っていただいた。その他にも太陽光発電、蓄電池施設について説明をした。ある議員からは「大栄統合小の建築を控えた中で、大金を使うからには、しっかりした校舎を作っていただきたい」との要望を頂いた。

4. 委員長閉会宣言